

令和3年度～5年度

菊西学舎「学びの庭」

**めざす子ども像 対話により学び合い、
あきらめず挑戦する菊西学舎の子**



「菊川」の地名の由来は、柵で囲まれた放牧地（城飼）を流れる川の「城飼川（きこうがわ）」が転じて菊川になったものと言われている。このことから、「菊西学舎」の象徴として、動物たちがのびのびと暮らし、草を食み、駿馬を育む牧場をイメージした。

菊川市では、各中学校区単位で「学びの庭」構想の実現をめざしています。小・中学校間の縦の接続、学校と地域社会の横の連携を深め、地域に支えられ一貫性のある教育を行うことで、子どもたちのより良い成長をめざす取り組みです。令和3年度には、この一環として、菊川西中学校区で「菊西学舎」がスタートします。

菊西学舎『学びの庭』構想

1 地域の地理と歴史

菊西学舎の舞台である菊川西中学校区は、菊川市の玄関であるＪＲ菊川駅と東名高速道路菊川インターチェンジを含む菊川市の北西部を占め、市街地と田園地帯、丘陵には茶園が広がるのどかな一帯である。この地は歴史的に、駿河国相良から信濃国まで続く「塩の道」の途中に位置する交通の要衝であった。「公文名（くもみょう）」など地名に中世の荘園制の名残が見られ、近世には藩や天領が置かれず、33の村を19人の領主が治めるなど、住民は各村に分かれた生活を送り、政治的な一体感は希薄な地域であった。

中学校区の4小学校、内田小、横地小、加茂小、堀之内小はかつてそれぞれの村の文化の中心であり、それぞれの地区ごとコミュニティ活動や健全育成会の活動が今日も活発である。この地区の一体感が高まるきっかけとなったのは明治22年(1889年)の東海道線菊川駅の開設である。物流の拠点である駅ができ、商業が活発になって駅周辺に市街地が形成され、これが中心となって旧菊川町の誕生へとつながった。菊川西中学校区はこの旧菊川町の中心区域を占めている。

2 地域の変化とその活性化

戦後、モータリゼーションが進み、物流を自動車が担うようになり、菊川駅を中心とする商店街・市街地は次第に影響を受ける。少子高齢化が進みコミュニティの力も弱体化した。一方、平成の時代に南部の水田地帯が開発され、駐車場を備えた大型店舗や宅地が形成され、外国にルーツをもつ人々も含む新たな住民が移り住むようになった。この結果、昔ながらの農村共同体的な価値観が後退し、多様な価値観をもった地域に変貌しつつある。

現在、古くから落ち着いた農村地帯で歴史的文化財が残る内田小学区、中世に横地城が置かれ南北交通の中継地でもあった横地小学区、水田農村地帯から商業地・住宅地に変わりつつある加茂小学区、中世からの農村と明治以降形成された市街地を擁する堀之内小学区と、菊川西中学校区は多様性に富んでおり、これがこの地区の特色をなしている。

3 学びの庭構想とは

少子高齢化、国際化、情報化が進み、社会がよりいっそう変化し、人々の価値観が多様化していく21世紀において、これからの子どもたちには、自立した人間として伝統や文化に立脚し、高い志や意欲をもって、他者と協働しながら新しい価値を生み出していく力が求められる。

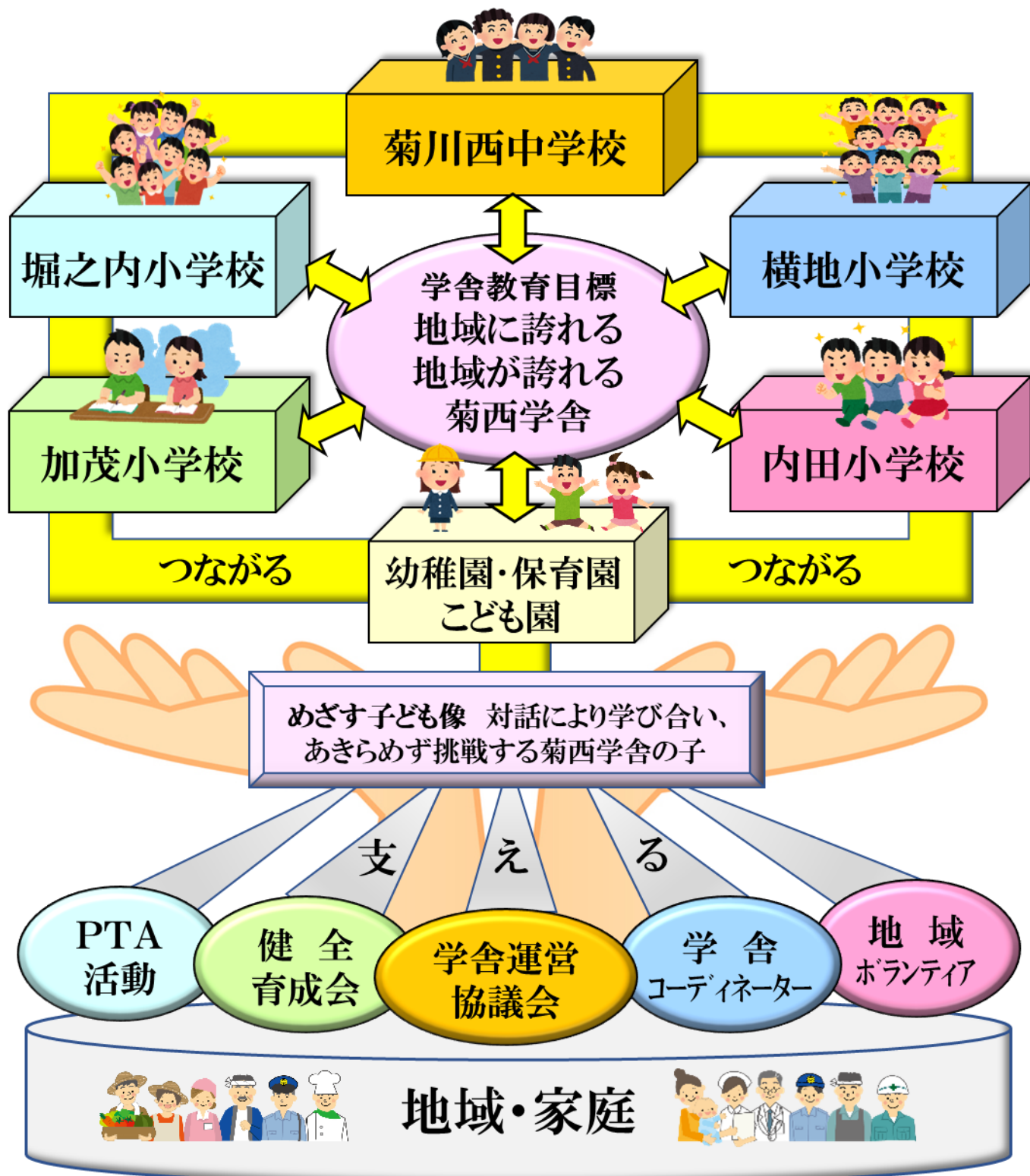
こうした力を育てるためには、学校、家庭、地域が相互に協力し、地域全体で学びを支えていく体制が必要である。菊川市では平成28年度から「小・中学校間の縦の接続」「学校と地域社会の横の連携」を基盤とした学びの庭構想を進めている。

4 菊西学舎の目的

菊西学舎の取り組みを進める目的は、上記のような現状を踏まえ、①中学校と小学校、さらには幼稚園・保育園・こども園が連携し、めざす子ども像を共有し、同じ方向性をもった一貫教育を行うこと、②地域の住民がもつ力を、例えば地域ボランティアや地元企業の協賛といった形で教育に活かし、子育てをしやすい地域を実現することである。

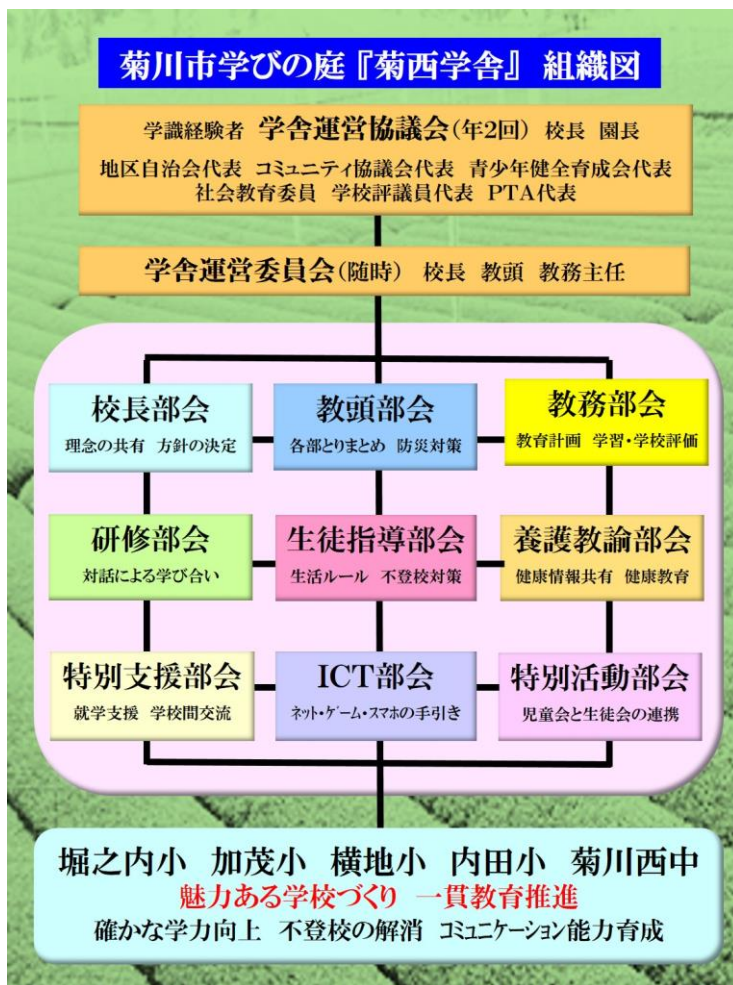
すでに見たように、菊川西中学校区の特徴は各小学校区の多様性にあり、菊川西中は地域を統合するシンボルとしての役割を期待されている。4小学校、中学校、幼稚園・保育園・こども園が縦に接続し、地域のコミュニティや健全育成会等と横の連携を図ることによって、中学校区がひとつの「学舎」として認識されることにより、充実した学びが実現し、これまでにない教育的効果が期待される。

菊西学舎『学びの庭』構想図



『菊西学舎』令和3年度スタート
令和5年度から学舎単位でコミュニティ・スクール化

6 小中学校間のたての接続



4小学校と菊川西中学校においては、縦の接続を図るため左のような組織をつくり相互に連携を強めている。

年2回の学舎運営協議会では、多様な立場から学舎の取り組みについて意見を求め方向性を決定していく。

随時開催される学舎運営委員会では、縦の接続を活かした取り組みの全体について把握し、調整を図っていく。



校長部会では互いの授業を参観し、より分かりやすい授業づくりに生かしている。



養護教諭部会では保健指導の取り組みを情報交換し、健康な学校生活に役立てている。

7 学校と地域社会のよこの連携

地域の豊富な人材に協力いただくことで、すでに下のような多様な取り組みが実現している。



野菜の苗を植える



お茶の手もみ



お茶の入れ方



読み聞かせ



お米の収穫



地元高校生と苗植え



クラブ活動指導



神社の歴史を聞く

他に…学習ボランティア～学習補助(ミシン、英語、習字等)、施設の整備・環境の美化
地域を学ぶ先生～歴史を調べる、郷土の偉人を調べる、地域の施設や企業を調べる
地域で学ぶ・子どもと触れ合う～地域行事や催しに参加、子ども見守り隊 など

地域に支えられ、地域の力を教育に取り込むことにより、さらに豊かな学びが可能となる。

学校と地域社会のよこの連携

学校・家庭及び地域住民が連携協力を推進することで、子どもたちのよりよい成長を目指し、子どもたちを地域の宝として育てる。



シイタケ菌の打込み



お茶の手もみ体験



田植え体験



トウモロコシの収穫



お茶の手摘み体験



お茶の手もみ体験



門松づくり



箏の体験



水生生物調べ



キャリア教育



キャリア教育



思春期講座



スーパー見学



能学



交通安全教室



プロギング



クミアイ化学



SUS 工場見学



図書ボランティア



クラブ活動ボランティア



ミシンボランティア



消防署見学



野菜の苗の植え方



防災講話



お茶の入れ方教室



人権教育



防災訓練



茶工場見学



ふるさと未来塾



稲刈り体験



校医さんによる歯磨き指導



地区文化祭に参加



男女共同参画

小中学校間のたての接続

中学校区を単位とした小学校、中学校が保幼こを含め、連携を強化し、一貫性のある教育を行う。



学舎運営協議会

学舎での子どもたちの様子やより良い成長を願い考えを出し合った。



学舎運営協議会

菊西学舎の教職員が学舎の子どもたちの課題や取組を話し合った。



菊西学舎職員合同研修



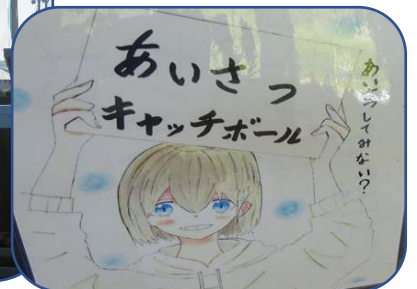
菊西学舎職員合同研修



あいさつプロジェクト 2023

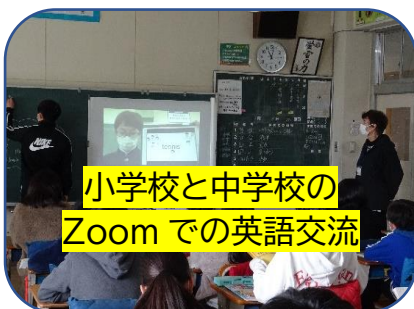


あいさつプロジェクト 2023



菊川市内 小中高校生あいさつプロジェクト 2023

菊西学舎では、小中高校生が一緒になってあいさつを盛り上げた。



小学校と中学校の
Zoom での英語交流



ようこそ先生の交流



小笠高校生との交流

菊西学舎の成果と課題等

○成果

- ・ 菊西学舎の教職員が一堂に会し、菊西学舎の子どもたちの様子や課題を出し合い、取組を話し合うことができた。
- ・ コロナ禍ではあったが、小中オンライン交流やＩＣＴを活用した学習等を進めることができた。
- ・ コロナ禍ではあったが、できることをできるところから粛々と進めることができた。
- ・ 菊川市の小中高のあいさつプロジェクト２０２３運動では、小中連携してあいさつを盛り上げることができた。
- ・ 学舎運営協議会では、委員の方から地域の子どもたちの様子や地域の声を聴くことができた。
- ・ クミアイ化学や SUS などの地元企業が子どもたちの学習に積極的に貢献し、連携が深まった。
- ・ ふるさと未来塾に参加する地元企業が増えた。

●課題

- ・ コロナの影響で計画した行事やイベント等を中止や延期せざるを得なかった。
- ・ 小学校と小学校の連携や小学校と中学校の連携を計画し、学舎で子どもを育てるという意識をさらに強める。
- ・ 学舎の取組を広く地域住民に知っていただくための情報発信を工夫する。
- ・ これまで以上に、地域と学校がより連携した活動を展開する。

☆今後の取組

- ・ 中学校が新１年生向けの動画を作成し、小学校に送る。
- ・ Zoom での学習交流や小学校と中学校の交流学習をすることで、小中連携した活動を増やす。
- ・ 小学校区内だけでなく、学舎内の他のエリアのことを知る活動を計画する。
- ・ いろいろ職種のプロの方から学ぶ機会をもち将来の夢を持たせる取組をする。
- ・ 登下校中の事故防止のための対策を講じる。
- ・ 地域の方から「学校に〇〇の協力をしたい」と言ってもらえるシステムを構築する。放課後に公民館等で勉強を見てもらえる組織づくりをする。
- ・ 地域を知る地域探訪や学習の充実のためのゲストティーチャーなどを積極的に取り入れる。
- ・ コミュニティ・スクールを共通理解して、地域と学校がより連携を強める。
- ・ 子どもの学習を広げたり深めたりするために、地域の企業とのコラボをさらに広める。